

国語総合	報告課題第三回	年	組	氏名
	解説			

報告課題第三回では、三つの詩が問題として取り上げられています。ここでは、それぞれの詩の大意と主題を解説していきます。

大意・・・文章で、言おうとしている要点。大体の意味。

主題・・・文学作品あるいは芸術作品では表現しようとする中心的内容。本題をさし、テーマとも呼ばれる。

【道程】 高村光太郎

大意

僕が歩んでいくこれからの人生、僕はそれを僕自身の力で切り開いていくつもりだ。しかし、全くの一人きりではない。広大な父でもある自然に見守ってもらい、その気魄を僕の内に充たしてほしいのだ。これからの長く、険しい、僕の人生のために。

主題

広大な父にも似た自然に見守られながら、自らの人生を自らの手で切り開いていく決意の表明。

【小景異情】 室生犀星

大意

故郷は遠い場所にあつて、はじめてよく思うことができるのであり、郷愁を歌うことができるのである。たとえ異郷で物乞いをするほどに落ちぶれてしまつたとしても、決して戻るところではない。たった一人で東京の夕暮れ時に、故郷を思つて涙ぐむ、そういう心情で我慢しなさい。決して帰つてはいけないのだ。ああ、いまその掟を破つて故郷にいる私は、はやく東京に戻りたい。

主題

ふるさとは遠くにあつてこそ、懐かしくよいものに思えるのであり、決して戻らないものだという、愛するがゆえの故郷への訣別の思いが語られている。

【六月】 茨木のり子

大意

どこかに美しい村はないか。一日の仕事の終わりには、酒場の片隅に鍬を立てかけ、籠を置き、男も女も区別なく黒麦酒の大きなジョッキを傾けるような。どこかに美しい村はないか。食べられる実をつけた街路樹がどこまでも続き、すみれ色をした夕暮れの空の下では、若者たちのやさしいざわめきが満ち満ちるような。どこかに美しい人と人の力はないか。同じ時代をともに生きる者として、したしさとおかしさとそして怒りとが、鋭い力となつて結集され、たちあらわれるような。そうした美しいものを私は求める。

主題

同じ時代を生きる者どうしとして連帯感を持ち、互いを信じていけるような世界があつてほしいという願い。

これらを踏まえたくえで、報告課題に取り組んでいきましょう。